

中田かわら版 6月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ



■この人に会いたい<25>

おもちゃ修理の名医 高橋雅夫さん (90歳) 向根下

「おもちゃの修理と、晩酌で飲むビール、お酒が現在の私の人生。そして15人の仲間と語り合いながら一緒に楽しく仕事ができるのが一番うれしい」。こう語る高橋さんの言葉に、この人は本当におもちゃに人生をかけているのを感じる。修理ができたおもちゃを手にした小学生から「おじさん、どうもありがとう」とお礼を言われると「最高の仕合わせを感じる」とも。今でも週に4回は修理の出

前に出かける。各地の自治会や新橋コミュニティー・ハウス、保育所「スキップ」など定期的に出かけるほか各地のイベントや「ボランティア・フォーラム」(泉区社協)には毎年参加している。私が高橋さんを初めて知ったのも、今年3月に行われた同フォーラムで紹介されたのがきっかけだった。

高橋さんの現役時代はセガ(SEGA)エンタープライズに勤めていた。外資系の会社で業務用ゲーム機器、ゲームソフトなどの開発、生産で有名企業だ。昭和30年から60歳の定年まで勤めたが、会社は高橋さんの技術を高く評価、そのため退職できず延長、結局72歳まで勤めることになる。その後も、後輩から「サミー」にきて、ぜひ手伝ってほしいと懇願され、技術と特許がらみの仕事を約7年間務め、79歳でようやく自由の身になった。いざ、自分の時間ができると、今まで培った技術を生かせる何かボランティアはないか考えていたとき、たまたまタウン情報紙におもちゃの病院「ドクトル・ベアーズ」(小林 茂代表)の記事を見て迷わず入会を決意する。もともと、おもちゃには関心があり、専門が電気関係でこの分野に強い高橋さんは仲間たちから頼れる存在になる。

「ベアーズ」の仲間たちは高橋さんをおもちゃ修理の神様とかテクニカル・アドバイザーなどと呼んでいる。「そうですか、最近のおもちゃは電気系統のものが多い、その点、私の得意の分野です」。おもちゃに限らず家庭内の修繕などは業者には殆ど頼んだことはない。「高橋さんには出来ないものはない、と」。

「持ち込まれるのは多種多様、それぞれ得意な技術を持った仲間が5～6人でアイデア出せば、大概なものは直せます。ただ、外国製品で珍しいものとか、ヨーロッパのビンテージ(古いもので価値のある)は神経を使います。その人には、思い出の品ですから」。或るとき、イギリス製でビンテージな木工の車の修理を依頼された。車輪(4cm)1個と折れたシャフト、これと同じものを作ってほしいと。細かい、根気のいる作業を何日もかけて同じものを作った。それに実物と同色の色つけまでやって、ようやく完成させた。何事にも挑戦する意気込みがすごい。



おもちゃを修理する高橋さん(中)

ドクトル・ベアーズのメンバーの一人、小林 茂さんの高橋評は「みんなから愛され信頼されている。仮に手足が利かなくなっても口だけは達者で、ハイカラなおじいちゃん、って感じかな。根っからお酒が大好きという高橋さんだが酔いつぶれたことは一度もないのが自慢だ。最後に「写真を1枚撮りたいのですが」と、カメラを向けると高橋さん曰く。「あ、ネクタイした写真の方がいいでしょうか」「いや、今の普段の姿で結構です」。やっぱり、おしゃれを気にする、明るく若々しい高橋さんがいた。

(編集委員 宮田貞夫)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

7月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【第42回子ども水泳教室】

開催日：8月3日(水)～7日(日)9:30～11:30（1回目は9:15より開講式）

場所：中田小学校プール 受講料：3000円

対象：小学2～6年生100名（5日間参加の方優先）

主催：泉区スポーツ推進委員連絡協議会

問合せ：090-2442-5847 渡部まで

※参加受付は、7月17日(水) 11:30～12:00 中田小学校で行われます。参加者が定員を超えた場合は、抽選になります。

【あさがお・ほうずき市】

開催日：7月2日(土)・3日(日)

雨天決行

時間：9:30～17:00

会場：花や館いざわ



主催：中田花卉組合

中田連合自治会

中田地区社会福祉協議会

■ 前田重一さんが編集委員を激励訪問

5月9日、前田さん（99）が「かわら版」の編集会議の様を見学したいと訪問された。「かわら版」が100号を発行したころから「どんなメンバーがどのように編集しているのかを知りたい」、と言っていたことがようやく実現。この日は佐々木、長谷川、山木、市川、宮田、葛西の6人の編集委員



が集まり6月号の、ある記事内容について検討していた。机の上には分厚い国語辞典や用語辞典、ゲラ刷り、コーヒーカップが雑然と置かれていた。「みんなやっぱり勉強家ですね」が前田さんの第一声だった。

前田さんは「かわら版」96号の「この人に会いたい」（17回）で紹介されたことがある。25、6歳のころから短歌を学び現在も雑誌の文芸欄に投稿を続けている才人なのだ。「大正6年生まれで99歳です、数えて100歳。この通り耳も遠くなりました」。しかし、頭脳明晰、口の方もかなり達者で、われわれがはっぱをかけられることもしばしば。約2時間、すっかり編集委員になりきっていた。編集会議が終わったあとも、これから次の会合がある戸塚まで行くとか。前田さんの毎日の日課とは。「妻が亡くなり現在一人暮らし。何でも自分でやらなければならない。毎日が自立の心です」。また100歳までどう生きるかを考えているとも。最後にこんな1首をすらすらと書いてくれた。

「ようやくに 卒寿の道を 超えければ 白寿のやかた にぎわいかな。」

（宮田貞夫）



■ 「満福いずみ食堂」中田にオープン

「こどもが一人で食べに来られる食堂、みんなと楽しくご飯を食べたいと思ったら気楽に来てね、もちろん大人の方もどうぞ」。5月12日から毎月第2、第4木曜日、午後5時から行われる。会場は中田町根下の信号を入ってすぐの所で、大きな看板が目印になっている。子ども100円、大人300

円。開催は「満福いずみ食堂」（飯野紀子代表）おせっかいチームで、地元のボランティアの人たちが協力して行っている。飯野さんは「バランスのとれた食事を子どもたちに、お腹いっぱい食べ、喜びを知ってほしいのです。いずみ食堂を運営、継続していくには地域の皆様のご支援がぜひ必要です」「食材や調味料の提供もぜひ、ご協力いただきたい」と言っている。なお、お手伝いをしてくれるボランティアさんも募集中。◎問い合わせ：代表 飯野紀子 080-3155-0829

（宮田貞夫）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jp へアクセス！！